

世の為、人の為に何か良いことをしたい、良いことを仕様、と言う気持ちがあるが、実際に身を以って実践してこそ佛様との縁が結べると思っています。三代揃って幸せに佛縁を頂ける家庭は少ないと思いますが、**子供を育てるには佛様の教え、即ち 身の在り方・口の在り方・心の在り方**について **どういう行いが善となり、どういう行いが悪になってしまいか**しっかりと教えましょう。人生の最悪は心の消滅、心を死なせてしまう事です。心の死は魂の存続を断ち切ってしまう事になり、自殺しかねません。仏心を持つ我々はどこかに佛縁を頂き知らず知らずの内にも慈悲を受ける身であると、知る事が大切の様に私は思います。多くの人間は誠に愚か者で、初心には満足した事でもすぐになれ、それでは満足できなくなり不足に思う様に成ってしまい **初心忘れず**の言葉のみ残ります。伝教大師様は **言を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり**と申されました。自我自賛の煩惱が苦を深めていくのも事実でしょう。欲が欲をよんでしまいます。鈴木正三師は **盲安杖**の中で **若し我ちからに及ばぬほどならば、仏身に祈誓して心を清むべし。・・常人の祈る事は、欲によくをかさね、愚痴にぐちをかさねる祈り也。**と、**貪瞋痴の三毒からくる苦の戒めを、自己を知らな**い事が起因していると説明されました。

釈尊は 天上天下唯我独尊 三界皆苦 吾当安之といわれ、**苦しみ悩む我々に真の安らぎを与える為の実践をお誓に成っています。**仏教では森羅万象・山川草木にも命ありとします。よく知られた俳句に **岩にしみいる蟬の声・蛙飛び込む水の音**があります。岩に声がしみていく、又、水の音も生きて耳に残る。木もきれば痛いと思うであろうし、岩も叩けば怒るかもしれません。全てが我々と同じように生きていると思う心が大切でしょう。自然環境を守ると言う事は人の心を育てる事にもなります。

人間、自分の力量ではにっちもさっちもいかなくなり、信仰の道に活路を見出す事もありましょうし、不安にさいなまれて信仰に道を求めることもありましょう。信仰の道程に制約は無く各自が道を開かくものです。手が合わさる時、信仰の道に入ったと思えます。私の信仰は**平穩無事に毎日暮らせる事**です。足る事を忘れて、成就の道は無いからと思えます。

親鸞聖人は 彌陀の本願信ずべし 本願信ずるみちはみな 摂取不捨の利益にて 無上覚おばさとのなり」と、**善導大師様は 南無**とは願いであり、**阿弥陀仏**とは行であると、**願行一致**により**南無阿彌陀佛**と称えれば極楽浄土に生まれるなり」と言われました。

縁に不足を抱かず、恩を知り恩に報いるは人間としての勤めなり。

彼岸供養は二十一日です。

二十八年三月一日

善壽男善入院油掛地藏尊